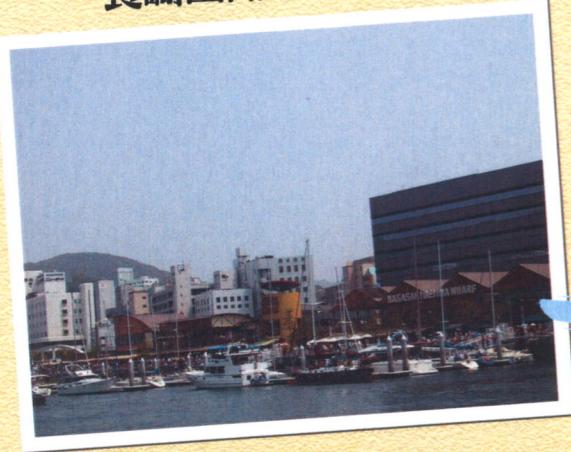
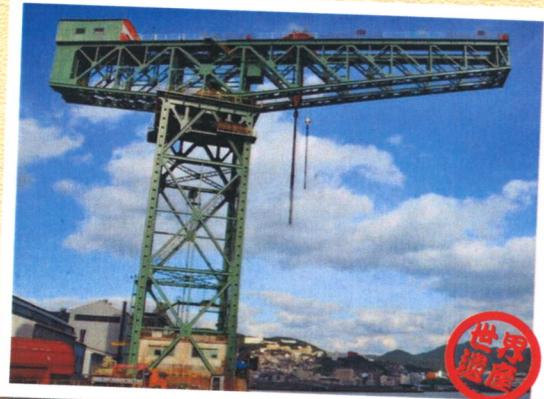


長崎クルージングマップ

長崎出島ハーバー



ジャイアントカンチレバークレーン



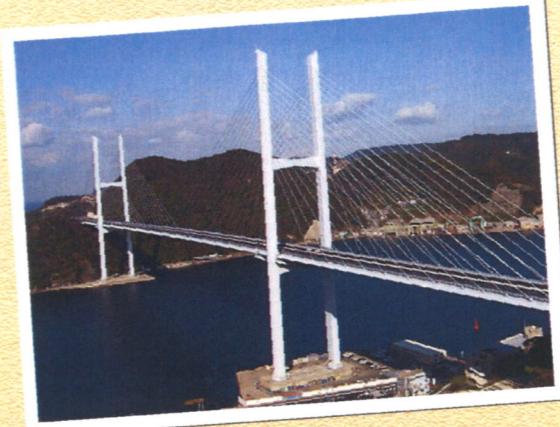
世界文化遺産 「明治日本の産業革命遺産」

三菱重工長崎造船所



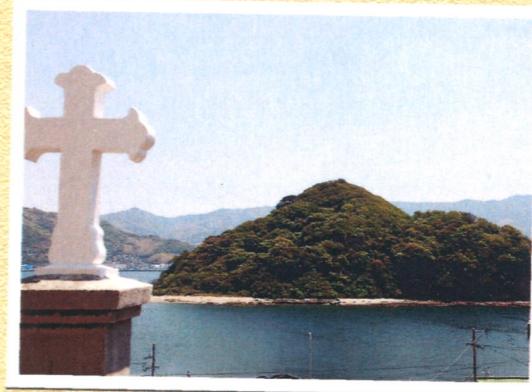
日本初の艦船修理工場『長崎鎔鉄所』として出発。
幕府から明治政府に管理が移った後、
1887年（明治20年）三菱に払い下げ、以後
民営の造船所として多数の艦船を建造
しました。
戦艦「武蔵」を建造。

女神大橋



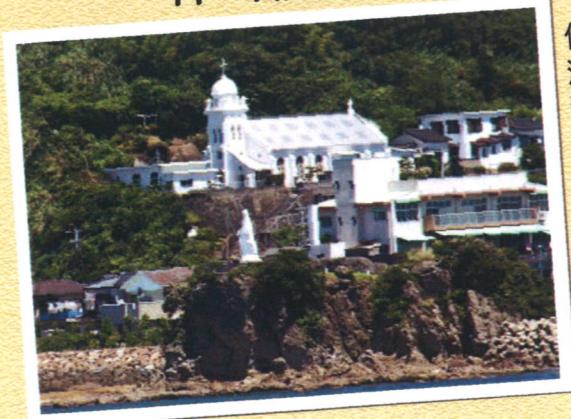
女神大橋（ヴィーナススイング）は、長崎港によって分断されている長崎市南部・西部を最短距離で結ぶことで市内中心部の慢性化した交通混雑を緩和し、地域全体の産業・経済・文化の活性化を図る事を目的に建設されました。
斜張橋としては、国内で6番目の長さを誇ります。また、夜間にはライトアップされ、観光都市長崎の新しいシンボルとなっております。
全長:1,289m 高さ:170m

高鋸島



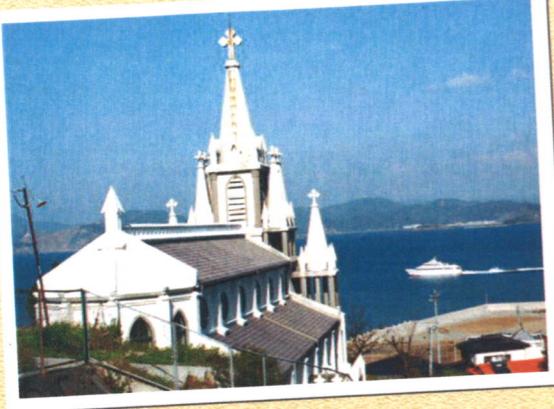
キリストン殉教の島として海外にも知られ、オランダ人に殉教の島と呼ばれた。キリストンの処刑が行われたり、西坂で処刑された信者の遺体が海に捨てられたりしたという。幕末・明治期の写真には高鋸島を写したものが多い。

神の島教会



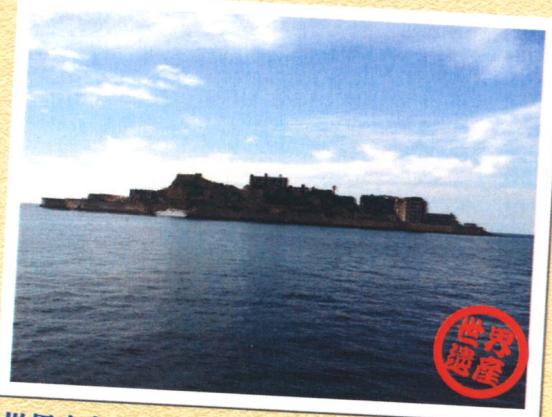
佐賀藩の神ノ島には、江戸前期からキリストンが潜伏し、江戸後期には、砲台築造の人夫として外海からきたキリストンらが移り住んでいたという。1876年には仮聖堂が建って多くの潜伏キリストンがカトリックになった。1897年にデュラン神父が私財を投じ現教会を建てた。

伊王島・馬込教会



1873年、明治新政府により、キリスト教禁制の高札が、撤去され、信徒たちの手によって各地に聖堂が建てられはじめます。伊王島でも、北側の伊王島に大明寺教会、南側は沖之島に馬込天主堂が建てされました。馬込教会は、1871年に、仮聖堂が建てられ、1890年にマルマン神父によって現在地に煉瓦造りの本格的な天主堂が建てられましたが、落雷と1927年、1930年と続いた台風により改修不能となりました。このため、1931年に現在の鉄筋コンクリート造りの聖堂が建てられました。

端島(軍艦島)



世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産」

明治時代から昭和時代にかけては海底炭鉱によって栄え、東京以上の人口密度を有していたが、1974年（昭和49年）の閉山にともなって島民が島を離れてからは、無人島である。島の周囲がコンクリートの岸壁で覆われ、高層鉄筋アパートが建ち並ぶその外観が軍艦「土佐」に似ていることから「軍艦島」とも呼ばれています。

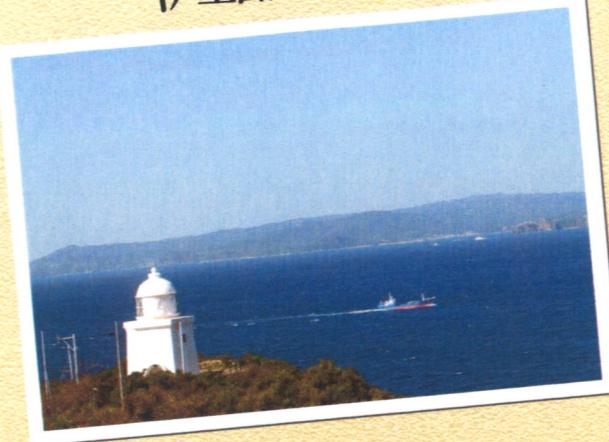
高島



世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産」

江戸時代初期から採掘が始まっていた高島炭鉱が明治時代初期に英國商人トマス・グラバーによって本格的な近代炭鉱として開発された。1965年ごろには、年間出炭量約127万tに達したがその後漸減、1985年頃には年間出炭量約65万tに低落した。同年の坑内事故、生産調整等により1986年11月27日をもって高島炭鉱は閉山された。閉山後は磯釣り公園の整備等を行い観光開発を模索しているほか、トマトのハウス栽培が盛んになっている。

伊王島灯台



慶應2年（1866）に米・英・仏・蘭の4カ国と締結した江戸条約によって全国8ヶ所に設置されたもののひとつで、日本で一番古い鉄造洋式灯台。昭和20年8月9日 長崎原爆の爆風被害のため損傷し昭和29年に鉄筋コンクリート造に改築。灯塔上部のドームは建設当時のもの。現在の建物は平成15（2003）年に建て替えられました。ドーム型の天井は140年以上経った今も使われています。

高倉健主演の映画「あなたへ」では、平戸が舞台でしたが、特別にこの伊王島灯台が「平戸のある灯台」として登場しています。

ソロバンドック



世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産」

日本最初の洋式スリップ・ドックが小菅修船場。船をボイラー型蒸気機関の力で引き揚げるために設置されたレール上の滑り台がそろばん状に見えるので、通称「ソロバンドック」といわれている。修船場は、外国船の修理を目的としてトマス・ブレイク・グラバーが薩摩藩士（小松帯刀・五代才助〔友厚〕）と計画し、イギリスから最新機器を取り寄せ、明治元年（1868）に完成了。巻上げ小屋は現存する日本最古の煉瓦造りの建物である。

世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産」の一つ

旧グラバー邸



世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産」

グラバー邸は文久3年（1863）に建てられた日本最古の木造洋風建築。建物の設計と庭園の配置を英国人貿易商トマス・ブレイク・グラバーが、建築を天草の大工の棟梁小山秀之進が担当した。建物はL字型の木造バンガローで、瓦葺きの扇形屋根、レンガ造りの煙突、天井付きの石畳の低いベランダなどが特徴の和洋折衷建築となっており、当初は商売相手を応接する場所として使用された。